

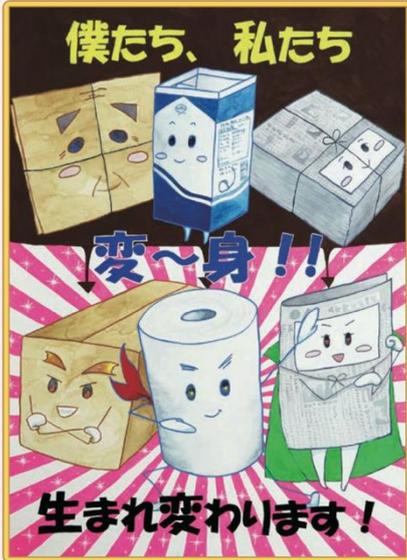
これまでの受賞作品より



文部科学大臣賞 ポスター部門

中学校 1年

変~身!!



ポスター-中学生部門

金賞

中学校 1年

古紙から美しい未来へ



作文中学生部門

金賞

中学校 3年

広げよう「リサイクルの輪」

私の家では環境問題に関心のある妹が中心となって、「紙資源」のリサイクル活動を行っています。新聞紙やダンボール、雑誌、雑紙などを分けて保管し、ある程度の量になったら資源の収集所に行きます。私はリサイクルについてよくわからなかったのですが、妹と一緒に市の広報誌でリサイクルの仕組みについて調べ、関心を持つようになりました。捨てられたごみになってしまう紙資源が、1 捨てない、2 分ける、3 出す、4 使う、ことを通して、貴重な資源となっていくことは素晴らしいことだと思います。この活動をもっと多くの人に知ってもらい、より多くの人に一緒に活動してもらいたいと考えた 私は、父にお願いしてみました。「お父さんの職場でもやってみたらいいんじゃない?」と。父は「いいよ」と即答してくれました。そして私と父は職場でのリサイクルの方法や声かけについて相談しました。父の職場では印刷機やコピー機があり、毎日ものすごい量の紙が使われているそうです。情報管理にはとても厳しく、個人情報などが載っている紙は シュレッダーにかけたりしているそうです。父は職場の管理職の方や同僚の人たちに声を掛け、個人情報 がもれるおそれのない書類や、お菓子などが入っていた空き箱については、用意したリサイクルボックスに入れるようお願いしました。

一週間後のことです。帰宅した父は荷物を降ろすこともせず、「優香、たった一週間でこんな大きな紙の束が四つもできたよ。」と、大きな手振りでもリサイクルの成果を話してくれました。職場の多くの人が協力してくれ、なんと二五キロぐらいの紙を資源として回収できたそうです。また、すぐそばのゴミ箱に紙類を入れるのではなく、用意したリサイクルボックスに持ち寄ることで燃えるごみの量が減ったことも教えてくれました。父も私も本当にびっくりすると同時に、とても嬉しくなりました。ゴミ箱に捨ててしまえば燃えるごみになってしまうはずだったものが、多くの人意識の変化と少しの手間をかけることで資源となる。そして、そのきっかけが私の一言だったなんて。なんだか、とてもやる気が出て、もっとこの運動を広げたいと強く思いました。今、私は自分の通う学校でもリサイクル活動ができないかを考えています。父や妹、姉、母とも 相談し、どうすれば学校の先生や友人の協力がもらえるかを考えています。まずは、関心を持ってもらうこと。そして、一緒に活動してくれる人を少しずつ増やしていきたいと思います。そして、皆でリサイクル活動に取り組み、「活動の輪」をどんどん広げていきたいと思っています。